

親鸞さまの

【本文】

ねんぶつひほう うじょう  
念 仏 誹 謗 の 有 情 は

あびじごく ださい  
阿 鼻 地 獄 に 墮 罪 し て

はちまんこうちゅうだいくのう  
八 万 劫 中 大 苦 惱

ひまなくうとぞときたまふ

【意識】

お釈迦様がお説きになられました。  
南無阿弥陀仏のみ教えをそしる人  
は、

無間地獄に墮ちて、

計り知れないほどの長い間大いなる  
苦悩を

絶え間なく抱え続けることになる」  
と。

【私の味わい】

自分を周囲に顕示し、自らを賢いと自認する人を主人公としたのが『裸の王様』のお話です。一方、洋服の仕立て屋は、王様の性質を見抜いた上で提案します。愚か者には決して見えない布で、あなたを飾る素晴らしい洋服を作りましょう、と。結局、王様も、臣下も、町の人々も内心おかしいなと思いつつ、結局本当のことを言えないでお披露当日を迎えます。誰も本当のことを言えない中、子供の「王様は裸だ」という言葉が王様を周囲の大人をハッとさせる。そういうお話です。

このお話は、地獄の描写で出てくるような強い表現をありません。しかし、自分を中としたものの見方がどのような結末を迎えるのか。物事を判断する基準、より所どころが曖昧であるとなが本物か分からなくなる、ということを楽しみながら真をついていきます。地獄との違いは、描写に違いあれども同じことを言っています。

阿弥陀様は、この阿弥陀を抛り所とせよ、この阿弥陀を人生の基準となさい、そう仰っています。それが南無阿弥陀仏、ということですから、私は私を、自己中心を抛り所にするのではなく、仏様を抛り所にさせて頂きます。そう思つて手を合わせ、お念仏させて頂くのです。

地獄という名の、自己中心の辿る人の結末ではなく、南無阿弥陀仏を大切に聞き、信じ、称(とな)える人にとっては、極楽浄土への道のりと結末があります。(悠水)